

研究分担者・研究協力者の公募について

第2委員会委員長 白川 充（仙台白百合女子大学）

はじめに

本学会が取り組む課題研究（研究プロジェクト）について理事会において承認されました。課題研究の概要は以下に示す通りです。つきましては、研究分担者（本学会員に限定）と研究協力者（学会員以外でも可）を公募しますので、関心のある方は応募してください。

1. 課題研究の趣旨

2021年6月に開催された日本社会福祉教育学会・第17回大会のテーマは「社会福祉分野におけるICT活用教育の課題と展望ーウィズ／アフターコロナ時代の社会福祉教育を考えるー」でした。コロナ禍の中で全国の社会福祉教育現場が遭遇したICT活用教育のあり方について検討するとともに、その経験を今後のICT活用教育にどのように生かすか、またその課題について検討することを目的としました。

この大会テーマの継続研究として課題研究（研究プロジェクト）が承認されました。研究テーマは「ICTを活用した社会福祉教育のあり方に関する総合的研究」です。その趣旨は以下のとおりです。

ポストコロナ期を迎えた大学等の高等教育機関では、コロナ禍前の状態にただ戻るのではなく、この間の経験を踏まえ、オンライン等の新しい手段をうまく活用し、コロナ前よりも教育・研究の質を上げる準備を始めているものと思われま

すが、本学会としても、ICTを活用した社会福祉教育の新たな動きについて、学会としての情報収集をもとに提言をまとめていきたいと考えています。それによって、第17回大会の連続線上において学会活動の活性化をはかるとともに、併せて、学会の社会的責務の一端を担うことができると思われます。

現時点で想定される研究の柱は以下の3点です。

- (1) 学修者本位の教育と授業空間のあり方（オンライン授業のあり方を中心に）
- (2) 高大連携のあり方や地域や実践現場（実習先）との協力・連携のあり方
- (3) リカレント教育のあり方

2. 研究計画の作成

研究計画の概要は、課題研究（研究プロジェクト）の中心メンバーとなる池田雅子（北星学園大学教授）・白川 充（仙台白百合女子大学教授）・保正友子（日本福祉大学教授）で作成します。この3人は先の第17回大会における学会企画シンポジウムA「福祉専門職養成におけるICT活用教育の課題」のシンポジストあり、今回の企画はこのシンポジウムの中から生まれてきたものです。

また詳細な研究計画は、この課題研究に参加する研究分担者・研究協力者が確定した後、2022年1月より開始する研究活動の中で検討する予定です。

現時点で、具体的な研究内容として構想していることは、社会福祉教育の一つの理念型である「講義と演習と実習の連動」に焦点を当て、その連動のあり方についてICTを活用した教育内容と方法がどのように貢献するかを検討してみたいと考えています。

そのためには、講義部門と実習部門と演習部門に関する教育内容と方法（ICT活用と教材を含む）についての実態把握と課題の抽出が必要であると思われます。そこでまずは学会員を対象とした量的調査とインタビュー調査を行い、現状と課題をまとめたいと考えています。そしてその結果については、学会報告および論文執筆することになります。

2. 公募要件

(1) 研究分担者（2～3名）

- ①本学会会員であること。
- ②2年間の研究活動に参画できること。

(2) 研究協力者（2～3名）

- ①社会福祉士・精神保健福祉士実習指導経験（実習指導者資格）を有すること。
- ②2年間の研究活動に参画できること。

(3) 公募期間と方法

- ①2021年12月3日（金）～2021年12月24日（金）
- ②添付の書式に記入し学会事務局に郵送すること。

日本社会福祉教育学会事務局

東北公益文科大学 小関研究室

〒998-8580 山形県酒田市飯森山 3-5-1

TEL:0234-41-1288

FAX:0234-41-1192

(4) 選考方法と選考結果

- ①書類選考（履歴書、研究業績書）
（※選考は本課題研究の中心メンバーである池田・白川・保正が担当する）
- ②2022年1月14日（金）学会ホームページ並びに本人に通知する。

(5) 問い合わせ先（下記のメールでお問合せください）

池田雅子（北星学園大学）<iked@hokusei.ac.jp>

白川 充（仙台白百合女子大学）<shirakawa@sendai-shirayuri.ac.jp>

保正友子（日本福祉大学）<hosho@n-fukushi.ac.jp>